

変化する産業保健の中で専門職 1 人 1 人のリーダーシップを応援する



東京大学大学院医学系研究科
精神保健学分野 教授 川上憲人

略歴 1957 年岡山県生まれ。岐阜大学医学部卒業、東京大学大学院医学系博士課程（社会医学専攻）単位取得済み退学（同年医博士取得）、東京大学助手、岐阜大学助教授、岡山大学教授を経て現職。医学系研究科公共健康医学専攻専攻長を兼務

私は 2013 年から 3 期連続して関東地方選出の理事となり、2017 年からは理事長として学会の運営に携わってまいりました。日本産業衛生学会を通じて社会に貢献することはやりがいのあることと感じており、理事に再任を希望して立候補するにあたり、抱負を述べさせていただきます。

1. 変化する産業保健の中で専門職の新しいリーダーシップを応援する

この 10 年余り、労働者・企業の価値観および法制度の変化にもなあって産業保健は大きく変化してきました。産業保健専門職に求められるスキルもより高度で、かつ多様なものになりました。私自身はこの課題を、公衆衛生専門職大学院（公共健康医学専攻）の責任者として、自身の嘱託産業医の実務経験から、また毎年 40 名の受講生を輩出し 7 年目になりました「東京大学職場のメンタルヘルス専門家養成コース」（TOMH）の責任者として、どう考えるべきか模索・分析してきました。その結果、専門職が自信と誇りを持って活動するために、自分のビジョンを定めこれを実現する道筋を考える「リーダーシップ」（Alon & Higgins, 2005）を持つことが重要と考えるようになりました。変化する複雑な社会状況の中で産業保健専門職 1 人 1 人が職種や年齢・性別に関わりなくリーダーシップを発揮できるように、科学的根拠やツールの開発や教育研修などさまざまな方法を通じて応援することが自分の役割だと考えています。

2. 理事として再任された場合には

学会運営に責任を担う者として、積極的に学会の発展に貢献する役割を務めます。この 2 年にも理事としてすでに活動してまいりましたが、科学的根拠に基づく産業保健の推進は私の得意領域であり、研究と現場とのギャップを多様な方法でつなぐことに貢献したいと考えます。また学会がアジアの産業保健の中でリーダーシップをとれるよう、国際化のためのさまざまな事業を推進してまいります。

3. 理事長としても再選されるなら

理事長として 1 期目を務め、本学会がリーダーシップをとり、また会員のリーダーシップを支援する体制を整えてきました。その成果は本学会のウェブサイトをご覧ください（<https://www.sanei.or.jp/?mode=view&cid=371>）。再選されるなら、これを踏まえて、「チームとしての産業保健の実現」、「全ての労働者に産業保健を」、「産業保健の質を担保する」ことを学会の目標として掲げ、本学会が本格的に意見を発信し、また会員 1 人 1 人がそれぞれの理想に向けて活躍することを支援する場を具体的に作ってゆきたいと考えます。皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。文献：Alon I, Higgins JM. Business Horizons 2005; 48 (6): 501-512.